

春の叙勲 府内144人に栄誉

建物や街並みなどの完成 間、描き続けてきた。と同時
予想図「パース」を40年 時に27歳の時に日本の先駆

18日付で発令された平成23年春の叙勲の受章者に府内から144人が選ばれた。教育や保健衛生、社会福祉、地方自治など、さまざまな分野で貢献した功績が認められた。

(中綴章以上の受章者名簿は24面に掲載)

瑞宝単光章 宮後浩さん(65)

コラムデザインセンター代表取締役



「パースは自分のイメージを相手に伝える、最高の道具」と話す宮後浩さん 〓 大阪市中央区

「完成予想図」裾野広げ

けとなるパース講座(現「コラムデザインスクール」)を開講し、1万人以上の後進を育ててきた。

教育や社会福祉、警察、消防関係者などの受章が多い中、「技能検定功労という分野で受章でき、驚きとともにうれしさを感じています」と笑顔を見せた。

大阪生まれの大阪育ち。4人兄弟の末っ子で、幼いころから絵を描くことが好きだった。上京し多摩美術大学に進学、インテリアデザインや建築を学んだ。

建築・設計業に進んだ長兄の勧めもあり、昭和47年、建築デザインを専門とする「コラムデザインセンター」を開設。翌年、パース講座を始める。

「最初は1人で外注のパースを描いていたが、急に需要が増え、パースの描ける社員が必要になりました。でも、即戦力となるような人材がいなかった。だから、講座で育てよう」と、

関西国際空港や神戸空港のパースも担当したが、最も心に残っているのは、阪神大震災直後、建築や都市計画の専門家ら7人とひざ詰めで5日間、神戸の復興計画を激論し、そのプランをパースに描きあげたこと。そのパースの図面は兵庫県知事に届けられた。

パースは、言葉にできないイメージを伝える視覚へのプレゼンテーションという。「一目でわかるパースの魅力」を、建築についてあまり詳しくない人にも伝えていければ。会社なら定年の年齢を超えたが、まだまだ意欲は尽きない。